

1:私は今年の 2 月にブラジルにあるアルモニア学園で上智大学の若林さんと一緒に研修生として、一か月間活動してきました。

2:研修の様子がよくわかるムービーがあるのでご覧ください。

このムービーはアルモニア学園の日本語の先生が私達研修生に秘密で作って下さったものです。私たちが帰国する 2 日前に朝の集会で流して頂きました。嬉しかったのと、帰りたくなかったのとで子供たちとハグ大会になってしまいました。本当に充実した研修生活でした。

3:この研修の目的ですが、大きく 3 つあります。一つは日本の文化を伝え、残していくこと。

二つ目は日本語の授業のお手伝いです。アルモニア学園には日本の英語の様に日本語の授業があるので、その補助をしました。三つ目は日本人移民について知識を深めることです。サンパウロにある移民資料館にも行き、日本人移民の方とも直接お話ししたことで知識を深めることが出来ました。

4:具体的な活動内容は、日本についてのプレゼンテーション、日本語の授業や行事のお手伝い、放課後の日本語活動のお手伝いを行ないました。プレゼンテーションは幼稚園、小学校、中学校全てで行いました。私は合気道をブラジルの子供たちに伝えたかったので合気道についてのプレゼンテーションをしました。私たちは 2 月から 3 月の間研修をしたので、ちょうど節分とひな祭りの時期でした。日本語の授業では節分の豆まき体験、ひな祭りでは折り紙でお雛様を折りました。放課後の日本語活動は、違う研修生の方がしてらっしゃった活動のお手伝いをしました。アルモニア学園の生徒さんたちは親御さんが毎日車で送り迎えをしてらっしゃるので、その待ち時間に日本語のパズルなどのゲームを生徒たちとやり、出来た子には折り紙の手裏剣などをあげるというものでした。このゲームが子供たちに大好評でした。

5:この研修で私が学んだことは大きく 5 点あります。1 点目は熱意と誠意は伝わるということ

をです。私はポルトガル語が上手くありません。それでも合気道や日本文化についてアルモニア学園の子供たちに知ってほしいという強い思いがあり、簡単な単語で短い文をたくさん作ることで伝える工夫をしました。プレゼンテーションの練習も、原稿を何度も読んで練習しました。すると子供たち、生徒たちが興味を持ってきて、発表の後もたくさん質問してくれました。子供たちや先生方の反応から、熱意や誠意は伝わるんだと学びました。2 点目は積極性の重要性です。朝の挨拶運動に参加させて頂き、毎朝門であいさつをしました。すると学校ですれ違ったりしても生徒たちの方から挨拶してくれるようになりました。当たり前のことですが、臆せず自分から話しかけコミュニケーションを図っていくことで、心の距離が縮められると学びました。3 点目は臨機応変さの

大切さ、確認の重要性です。アルモニア学園では予定が変わることが頻繁にありました。予定されていたプレゼンテーションの日がちが変更になったり、内容が変わったり、無くなったりしました。また、三日前に OK だったものが前日にはダメになっていたりしました。こういった経験を通して、頻繁に確認することの重要性と一つの案が没になっても直ぐに次の案をだせる臨機応変さが重要だということが身をもって学びました。4 点目は参加することで分かりあえるということです。学園の中学生たちと一緒に昼休みにサッカーをしました。それまでは、授業中に教室の後ろでメモを取って時々話しかけてくる日本人と言う認識だったと思いますが、一緒にサッカーをしてからはとても仲良くなり、よく話しかけてくれるようになりました。一緒に何かをすることで人と人の距離が急速に近くなるということを体験できました。5 点目は人とのつながりを実感することができた点でした。このアルモニア学園研修はという「ブラジル人労働者支援センター (TRABRAS, 加藤仁紀理事長) が毎年企画してらして、それを引地さんが京都外国語大学に繋いでくださって、私がこの研修のお話を頂き、今こんなにたくさんの方の前で活動報告をさせて頂いています。アルモニア学園でも、生徒や先生方、研修生の方など多くの人たちに支えられて研修を終えることが出来ました。本当にたくさんの方々に支えて頂いて貴重な経験が出来ました。人と人との繋がりや尊さを感じる事が出来ました。

8:今回が私にとって初めてのブラジルでした。刺激的なことがたくさんありました。まず最初にショックを受けたのは想像していたよりもポルトガル語が聞き取れないし、自分の口から出てこないということでした。それでも一か月後帰国する 2 日前には子供たちの言っていることが聞き取れるようになり始めました。やっと分かり始めたころに帰国しなければならなかったのも、もっと滞在したかったという思いは強いものでした。それからブラジルの広さに圧倒されました。飛行機からみたブラジルは水平線までずっと緑が続いていて、なんて大きな国なんだ。と衝撃を受けました。もう一つ特に困ったことはブラジルタイムでした。「何時から授業があるから教室に来てね。」と言われてその時間に行っても誰もおらず、10 分から 20 分後に来ることもありました。ホームステイの時も、ホームステイ先の家族は迎えに来てくれましたが約束していた時間の 2 時間後に来てくれました。その感覚がなかなか掴めなくて大変でした。また、アルモニア学園の生徒たちはとても裕福ですが、一步学園の外に出ると少し離れたところにスラム街があり、貧富の差の激しさに衝撃を受けました。

嬉しいこともたくさんありました。子供たちが凄く可愛くて優しく、研修で大変な時はいつも癒されました。また週末にはホームステイ先の家族が観光地に連れて行ってきてとても楽しかったです。また、ブラジルの食べ物がおいしくて感動しました。学園では平日は毎食学園の食堂で給食を食べれたので、毎日ご飯が楽しみで待ちきれませんでした。

海外事情研究会 59 周年セミナー

京都外国語大学ブラジルポルトガル語学科 3 回生 大西香穂

最後に、今回ブラジルに行って、人生を充実させよう、楽しもう！というエネルギーに満ちていると思いました。日本は今、働き方改革や教育では子供たちの生きる力をどう育成するかが課題になったと思いますが、そういう面で日本がブラジルから学べる事も多いのではないかと感じました。またブラジルに行きたいです。

